

地域版 希望大使の 任命と活躍の手引き

.....

地 域 で の 活 動 事 例 集



目 次

手引きのねらいと活かし方	1
地域版希望大使が日々の暮らしを楽しみながら活躍	2

1 地域版希望大使 ～日々の暮らしや活動の紹介（14都府県）～

埼玉県オレンジ大使	4
ちば認知症オレンジ大使	6
とうきょう認知症希望大使	8
かながわオレンジ大使	10
岐阜県認知症希望大使	12
静岡県希望大使	14
愛知県認知症希望大使	16
京都府認知症応援大使	18
ひょうご認知症希望大使	20
かがわ認知症希望大使	22
えひめ認知症希望大使	24
高知家希望大使	26
ながさきけん希望大使	28
大分県希望大使	30
*認知症とともに生きる希望宣言	32

2 地域版希望大使の任命と活躍支援に向けたポイント

1. 都道府県が地域版希望大使を設置する目的	33
2. 地域版希望大使の人物像と役割	34
3. 地域版希望大使の任命（委嘱）までのプロセス	36
4. 地域版希望大使の具体的な役割・活動の設定	40
5. よりよい活動に向けて	42

資料1 「認知症本人大使『地域版希望大使』の設置について」	44
(令和2年3月24日老発0324第2号厚生労働省老健局長通知) (抄)	

資料2 認知症施策推進大綱（抜粋）	45
-------------------------	----

手引きのねらいと活かし方

- これからもいろんなことをやりたい。未来はあるんや。
- 今まで通り、普通に暮らして、元気にしています。ただそれだけです。それが、私以外の認知症の方や家族の役に立てばよいと思っています。

(地域版希望大使の声：「次に続く人へ」より)

認知症になってからも希望を持って暮らせる共生社会を、本人が共に創っていくために

一人ひとり、自分なりの人生を生きていく途上で、誰もがなる可能性がある認知症。

今、日本全国どこで暮らしていても、「認知症になってからも希望を持って暮らせる共生社会」の実現が目指される時代になりました。共生社会を具体的に進めていくために不可欠なことは、認知症の人自身の声、本人からの発信です。

一方で、認知症とともに希望を持って生きていく地域共生の理解や本人発信については、まだまだ広がっていない現状があります。それを打開していくために創設されたのが地域版希望大使です。認知症施策推進大綱では、2025年の目標年までに全都道府県で設置することになっています。

すべての都道府県で希望大使が誕生し、生き生きと活躍していけるように

2023年3月現在、16都府県が地域版認知症希望大使（以下、大使とする。）を任命し、55名の大使が誕生し、それぞれの大使は自分なりの活動を始めています。大使をどのように任命し、その活動を都道府県としてどう後押ししていくかは、都道府県の認知症施策を「本人視点で」「本人とともに」進め、拡充していくためのジャンプボードになる重要な取組です。

この手引きは、大使未設置の道府県が大使の任命を着実に進めていくために、また、全都道府県で任命された一人ひとりの大使が、より生き生きと活躍していけるよう、参考となる情報や知見を2022年度に行った調査結果等をもとに、本人が参画して作成しました*。

この手引きを地域で共有しよう！一人でも多くの本人が希望を持って暮らしていけるように

大使の任命や活躍は、都道府県（施策担当者）だけの力で進められるものではありません。市町村（施策担当者）や多様な支援関係者、地域の人々、そして本人やその家族の理解と協働が必要です。

この手引きの前半では、大使として活動している人たちの「日々の暮らしと活動」の実際を紹介しています。大使が特別な存在ではなく、地域でごくふつうに暮らしている一人の人であること、認知症になってからも、周囲や地域の理解と応援を通じて、前を向いて自分らしく地域で暮らし続けていけることを、大使一人ひとりがリアルに伝えてくれています。

この手引きを、行政の施策担当者の方々はもちろん、地域の本人たちに、そして様々な立場の人たちに伝え、わが地域とともに生きていく希望や本人ができること、したいこと等を、ぜひ一緒に語りあっていただきたいと思います。

この手引きがきっかけとなり、みなさんの自治体や地域で、認知症になってからも前を向いて生き生き暮らしていく本人が一人でも多く増えていきますように。そして、自分なりの暮らしを通じて、地域の中で共に暮らしていく理解と共生の実際を広げていく「大使になってみたい」と思う本人が増え、各地の大使仲間が繋がっていくことを願っています。

令和5年3月

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ（JDWG）

* 令和4年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）
「地域版認知症希望大使の普及促進と活動支援に関する調査研究」（JDWG受託）

本手引きに関連する常設WEBコンテンツ「希望大使 活動推進サイト」では、大使の日々の暮らしや活動（動画）や、大使からのメッセージ等（PDFスライド）がご覧いただけます。
日本認知症本人ワーキンググループのホームページからご覧ください。



全国で地域版希望大使が生まれ、



全国の希望大使の任命状況

(令和5年3月末。都道府県及び厚生労働省ホームページでの公表ベース)

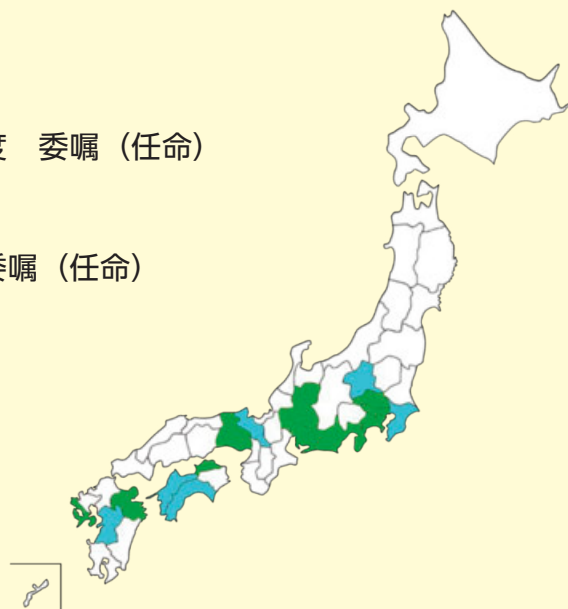
都府県名	名称	委嘱日（任命日）	大使の人数
群馬県	ぐんま希望大使	令和5年3月17日	1名
埼玉県	埼玉県オレンジ大使	令和3年9月2日 令和5年2月3日	4名
千葉県	ちば認知症オレンジ大使	令和4年6月24日	2名
東京都	とうきょう認知症希望大使	令和3年9月10日	5名
神奈川県	かながわオレンジ大使	令和3年4月23日	15名
岐阜県	岐阜県認知症希望大使	令和3年9月22日	2名
静岡県	静岡県希望大使	令和2年9月30日	1名
愛知県	愛知県認知症希望大使	令和3年7月27日	2名
京都府	京都府認知症応援大使	令和4年12月7日	6名
兵庫県	ひょうご認知症希望大使	令和3年9月21日	1名
香川県	かがわ認知症希望大使	令和2年12月17日 令和4年12月17日	1名
愛媛県	えひめ認知症希望大使	令和4年10月1日	2名
高知県	高知家希望大使	令和4年7月26日	1名
長崎県	ながさきけん希望大使	令和3年10月13日 令和4年9月10日	5名
熊本県	くまもとオレンジ大使	令和5年2月8日	3名
大分県	大分県希望大使	令和3年3月16日 令和4年10月27日	4名
16 都府県合計			55名



令和2～3年度 委嘱（任命）



令和4年度 委嘱（任命）



埼玉県オレンジ大使

埼玉県

委嘱日	令和3年9月2日	令和5年2月3日
人数	2名	4名



菊地 大輔さん

(令和3年委嘱時：47歳)

●次に続く人へ

講演会で話をするのは、自分の義務だと思っています。認知症と明るく向き合う事の大切さ。

なににもできないではなく、認知症でも出来る事は沢山あると思います。

役割を簡単な物でも良いので持つのがいいです。

趣味も大事。健康のための有酸素運動、軽く歩くのも良いのでは。

●大使になったきっかけ

地域版希望大使交流会でオンラインですが、丹野さん*とお話できたことは大きかったです。

*丹野智文さん

宮城県仙台市在住。39歳の時、若年性アルツハイマー病と診断される。



渡邊 雅徳さん

(令和3年委嘱時：44歳)

●次に続く人へ

認知症になっても何もできないわけではありません。

先輩方の活躍を見て、前向きになれました。

希望を持っていきましょう！

●大使になったきっかけ

丹野さん*の講演を聴いて、自分もやりたいと思い講演活動などを始めました。

その後、家族の会埼玉県支部の代表花俣さんからオレンジ大使の就任を勧められ、自分の活躍できるところとして引き受けました。



中村 ふみさん

(令和5年委嘱時：87歳)

・2021年、認知症の診断を受ける。

・義母の認知症や夫のパーキンソン病の介護を在宅でしていた。

・市社協主催の介護者の会「朝顔」(家族介護者の集い)に参加。(その後代表も務める。現在は退任)

・当事者団体におけるピアサポート(電話相談員等)活動に長年関わってきた。

・介護者と当事者の両方の視点を持ち、認知症本人のことを知って欲しいという気持ちがある。



三村 博寄さん

(令和5年委嘱時：67歳)

・8年前、水頭症の診断を受け、2019年、アルツハイマー型の若年性認知症と診断される。

・現在は「これでいいのだバンド」(作業療法士や認知症本人によるバンド)で口笛、笛で参加。

・新しく開設される若年性認知症カフェに参加予定。

・明るい性格で話好き。

・「言葉に出すことは大事」と認知症当事者の気持ちを講演活動などを通して伝えることに意欲を持っている。

日々の暮らし・大切にしている活動



越谷で開催されている
若年性認知症の人が集
う「ガーヤカフェ」で
スタッフをしています。
とても楽しいです！

講演活動は生きがいです。
他の人たちに影響を与える存在になりたい！

認知症多職種協働研修での講演



埼玉県オレンジ大使の任命式にて
(令和3年9月)



埼玉県オレンジ大使の任命式にて
(令和5年2月)

任命した埼玉県担当者から

<任命してよかった点>

大使の参加したサポーター養成講座の受講者からは、
「認知症本人の話を聞けて貴重な機会だった」「今後ご本
人と接するときのヒントとなった」などの声が聞かれた。

<課題、これから注力したいこと>

- ・大使が就職し、平日の講演が難しい状態となった。
新たな大使の候補者が見つからない。
(令和4年調査時)

ちば認知症オレンジ大使

千葉県

委嘱日

令和4年6月24日

人数

1名



ただおさん
(委嘱時：70歳)

●次に続く人へ



●人の役に立ちたい。

認知症を発症したとき、自分も家族も居場所がなかった。出来ることは何でも挑戦したい。自分が発信することで世間の認知症の人に対する偏見が少しでも少なくなれば良い。又、若年性認知症の人は体力も充分あるので、アクティブに活動出来る居場所があればいいと思っている。



のりこさん
(委嘱時：53歳)

●次に続く人へ

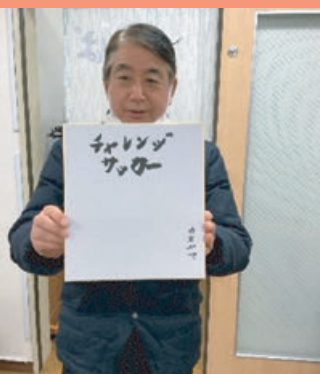
大使になって、色んな活動を行い、それを通じて、たくさんの人と出会えました。

●大使になったきっかけ
会社のことでつらい思いをしている時、地域包括支援センターの方が「若くて、動けるのりこさんに出来ることはいっぱいある」と思い、大使の活動を薦めてくれたことがきっかけです。

日々の暮らし・大切にしている活動



正月はお天気が良かったので高尾山登山、気持ちよい汗をかきました。



今年の抱負：昔やっていたサッカーにチャレンジしたい！



愛犬と暮らしています。

自宅でフルートを練習



繊細な作業を、丁寧に行っています。職人さんのよう。
(あしたば工房にて)



手元のビンゴが揃い、プレゼントに思わずにんまり。
(クリスマス会にて)



令和4年11月のフルート発表会



日常生活をサポートしてくれるケアマネさんと

こんな活動をしています



施設と隣接する公園のゴミ拾いを行っています。
(フリーサロンあしたばにて社会貢献活動)



委嘱式でフルートを発表！
知事に会えて嬉しかった！
チーバくんと記念撮影。



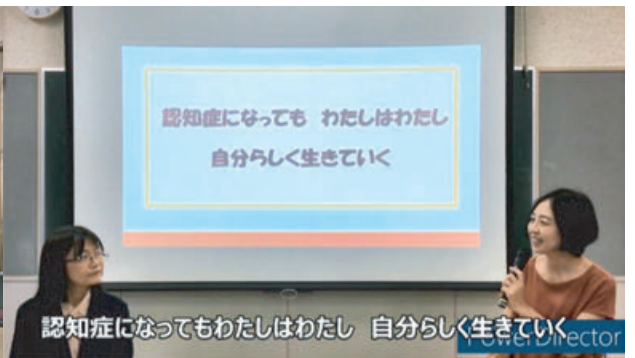
地元の研修に登壇しました。



沢山の方に積極的に声を掛け、
充実した活動となりました。
(フリーサロンあしたばにて共同募金活動)



令和4年12月千葉県庁にて、ちば
認知症オレンジ大使の2名でイン
タビューを受けました！



いつも活動を支援してくれる千葉県若年性認知症支援コー
ディネーターさんと、地元の大使インタビューにて

任命した千葉県担当者から

<任命してよかった点>

大使が出席したキャラバン・メイト向けの研修参加者から「実際にお話を聞くことができ、貴重な機会であった。」「ご本人がされたことをして、いきいきと生活されていると感じた。お話を聞けてとても良かった。」などの意見があり、希望大使として参加者にプラスの影響を与えていると感じた。

大使の存在によって、話を聞いた方が、認知症に対する見方や、捉え方について良い方向に変わっていくと思われる。

<課題、これから注力したいこと>

- ・現在、活動の場が地元地域のみであるため、大使の希望や意向も確認しながら、県内全域に対して、大使の活動を広めていきたい。

とうきょう認知症希望大使

東京都

委嘱日

令和3年9月10日

人数

5名



樋口 賢さん
(委嘱時：58歳)

●座右の銘は、“あるがままにあせらずに”。仲間を広げていきながら、変わらず焦らず、前を向いて生きていきたいと思っています。



能任 智子さん
(委嘱時：68歳)

●次に続く人へ
今まで通り、普通に暮らして、元気にしています。ただそれだけです。それが、私以外の認知症の方や家族の役に立てばよいと思っているだけです。

●大使になったきっかけ
いつもアシストしてくれている方に勧められ、「特別なことは何もしていないし、ふつうに暮らしているだけだよ！」と言ったが、「それでいい！」と言われて「私で役に立つなら」と受けた。



田尾下 久さん
(委嘱時：79歳)

●次に続く人へ
認知症を受け容れて普通に暮らしています。大使になってこれまで違ったことのない人と知り合い、お話ができて楽しめますよ。

●大使になったきっかけ
みらいの会の連絡役の人から勧められ 普段通り暮らしていることを伝えてと言われた。そんな事が役に立つならと引き受けました。



岩田 美枝さん
(委嘱時：82歳)

●次に続く人へ
人に迷惑をかけないように頑張っていますが、そうはいかない時があります。だからこそ、私の姿が少しでも人の役に立てることがあるならば、認知症の方やご家族の力になりたいと思いました。自分ができることを精一杯やればいいですよ。

認知症になると、「昔の自分」や「まわりの人」とのギャップで、自信を失ってしまうことがあります。ぜひ、認知症だからと言って特別視をせずに、“普通に”接してほしいと思います。



長田 米作さん
(委嘱時：88歳)

●次に続く人へ
人のために何かできることが「いきがい」になっています。認知症になると家にこもりがちになるけど、大使の活動が外に出るきっかけになると良いです。

●大使になったきっかけ
人の輪の中に入り、いろいろな人とおしゃべりすることに不安を感じなかったもので、まずは「とうきょう認知症希望大使」をやってみようと思った。

日々の暮らし・楽しみにしていること



妻が腰を悪くしてから台所に立つように。妻に教わりながら料理しています！



買い物や地域の活動へは愛用の自転車です。出かける時は、自分で作ったスーツを着用（長年、テーラーの仕事をしていました）。



行くのが楽しみ！（くらしの保健室たま）何でも相談できる、大事な居場所。

日々の暮らし・楽しみにしていること



月1回、本人ミーティングに参加。同じ病気や気の合う仲間に出会えたことを嬉しく感じている。



毎週日曜日は、団地の「女子会」に参加。お昼はみんなで作って、おしゃべり、ゲームで楽しむ。



30年以上にわたって書道塾を経営し、子どもから大人まで指導してきた。グループホームで生活している現在も、月に2回書道教室を開き、子どもたちに教えている。



こんな活動をしています



地域のイベントで思いを伝える。「集まれる場所がもっとあるといいね!」



いろいろなイベントへいつものボランティアさんと一緒に。



地域のイベントで講演会



近隣市の依頼で、当事者とトークイベント
これをきっかけに活動グループが生まれ、その後も交流。



東京都の希望大使座談会にて（オンライン配信）

▶ 動画もご覧ください



任命した東京都担当者から

<任命してよかった点>

認知症施策推進会議や認知症シンポジウム等のイベントにおいて、認知症の当事者のお声を聞く機会を得やすくなった。支援者の方より「大使のイベント出演がきっかけで交流が生まれ、地域の活動が活性化された」とのお話もいただいた。

<課題、これから注力したいこと>

- ・都道府県だけでなく区市町村単位でも大使の任命・委嘱を実施すべきとの意見もあり、状況に応じて今後検討が必要。

かながわオレンジ大使

神奈川県

委嘱日	令和3年4月23日
人数	15名

かながわオレンジ大使のみなさん

パネル「認知症とともに生きる」の一部（神奈川県ホームページより）

- 「認知症とともに生きる～当事者からのメッセージ～」
動画
(1) かながわオレンジ大使の活動の様子
いきいきと「楽しむ」「活躍する」「伝える」
(2) 大使が思いを語るインタビュー
(神奈川県ホームページより)



望月 省吾さん
(委嘱時：77歳)

●次に続く人へ
とにかく、少しでも 前向きに楽しく活動できるように努力すること。それでみなさんに喜んで頂けるのであれば、こんなに幸せなことはないですね。

●大使になったきっかけ
主治医にボランティア活動を薦められたことを機に積極的に活動をはじめました。みなさんに喜んでもらえるこの活動を更に広げたいと応募しました。



松浦 謙一さん
(委嘱時：65歳)

●次に続く人へ
認知症デモ諦めない！
認知症ト診断されて悩んだり苦しんだりは当然
どう向き合っていくか？
どうすれば暮らしやすくなるか？
今出来る事はないかを考えながら行動していきます。



伊藤 敬子さん
(委嘱時：71歳)

●次に続く人へ
今置かれている地域、家庭で、自分らしく生きて行く。毎日自分で計画をたて、行動しています。
何でも相談出来る人やカフェが近くにほしい。

●大使になったきっかけ
これまでの活動や考えを自分の言葉で伝えられたため応募しました。



山上 裕司さん
(委嘱時：59歳)

●本人ミーティングなどで自身の体験を語り、悩みを共有・傾聴するピアサポート活動に取り組んでいます。

●大使になったきっかけ
認知症になって、妻とともに様々に経験してきたことを伝えたい。

日々の暮らし・楽しみにしていること



ワインソムリエ
気楽なワイン会での講師です。



演奏ボランティア
福祉施設でマンドリン演奏、喜んでもらっています。



皆で干支のウサギを制作中！



長距離は、マイカー(?)で
散歩。



ライブ活動は生きがい。バンド仲
間に支えられながら、楽しんでいます。



パソコンを使ってのイラスト
制作も楽しみの一つ。
(クリエイターの仕事を
してきました)



お寺でのボランティア活動や得意
の語学を活かした活動など、ま
だまだできることはあります！



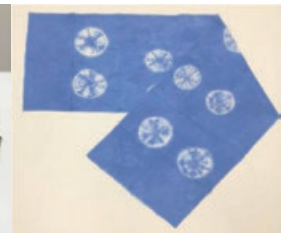
ZOOM会議
大使になって初めて、ZOOMを使う
ようになりました。



「若年性認知症本人と家族のつどい」
でのレクリエーション。



粘土細工のハリネズミ



青色の手ぬぐい（絞り
染め）

こんな活動をしています



講演活動
メディアにも出演し、活動の幅が広がりました。



注文を間違えるカフェinかまくら
皆で頑張りました！



講演会のほか、本人ミーティングなどで、
自身の体験を語り、悩みを共有・傾聴す
るピアサポート活動に取り組んでいます。

任命した神奈川県担当者から

<任命してよかった点>

認知症当事者の思いを直接伝え、その人らしい活動を
発信することで、認知症当事者の多様なあり方を多く
の人に発信することができた。

<課題、これから注力したいこと>

- ・ 認知症当事者の様々な思いや活動を広く発信すること
- ・ 企業や大学等と連携した、認知症当事者の意見を反映
した商品やサービスの開発を行うこと

岐阜県認知症希望大使

岐阜県

委嘱日

令和3年9月22日

人数

2名



高見 武司さん
(委嘱時：59歳)

●次に続く人へ

出来ることを仲間と一緒に楽しもう。そういう場所から活力をいただいています。作業所やいろいろな場所に居場所や役割何か役に立てることが今一番うれしいです。

●大使になったきっかけ

今までお世話になった方に勧められ 岐阜県の認知症に対しての理解が深まるように自分でお役になれるのなと思い引き受けた。サポートしていただけるみなさん、いろいろな仲間を支えられ活動できていることにとっても感謝しています。



林田 光市さん
(委嘱時：63歳)

●次に続く人へ

今までどおり、普段の生活を楽しく明るくやっていきたい。仲間になりましょう。

●大使になったきっかけ

元々、県の就労支援モデル事業の関係で県と繋がりがあり、お声かけがありました。大使になっても今のまま、自然体で良いと言われたため引き受けました。地域包括支援センターの方、作業療法士の方が応援・援助してくれています。

日々の暮らし・楽しみにしていること



週末に登山、たまにボーリング、パターゴルフ、テニス。体を動かすとスッキリします。



就労支援ワンステップで難しい作業は若い人と、ペアになって。



博物館で週2回仕事をしています。薬草園の草花の管理などを行っています。優しい人ばかりでとても良い環境です。
(岐阜県若年性認知症就労支援モデル事業)



登山
仲間と一緒に楽しい。



borderlessハイカー
近隣の仲間とあちこちハイキング仲間が広がった。



令和4年に、小学5年生まで過ごしていた千葉県に行く夢が遂に叶いました。昔はサーファーだったので懐かしの海にも行けました。



毎月のカフェ あんきの会、絆会、みつばち、わらっとこ、毎週のように色々な所に参加

こんな活動をしています



豊田市で講演会
サポーターの方に支えられ、安心して落ち着いて話せました。



桑名市で講演会
大使として他県での初仕事。



地元（瑞穂市）で認知症サポーター養成講座の講師を務めました。



岐阜市で講演会
いつも支えていただいている方と一緒に。



愛知県の「認知症ピアサポート活動研修会」に、大使2人が参加。
（愛知県、岐阜県、静岡県の認知症希望大使や活動パートナーが参加。3県合同で研修会を2023年1月に開催）



ピアサポート活動、本人が交流しやすい場、サポートするうえで大切なこと、などを、各県の大使や活動パートナーが話しました。



▶ 動画もご覧ください



任命した岐阜県担当者から

<任命してよかった点>

認知症本人からの思いを聞くことにより、自治体職員や県民の認知症に対する理解が深まっています。
また、認知症に対するネガティブなイメージ・偏見の払拭に繋がっています。

<課題、これから注力したいこと>

- ・ 支援者、協力者等が限られており、負担が偏っていることが課題です。
- ・ 認知症希望大使と協働して、これからも認知症の普及啓発に努めていきたいです。

静岡県希望大使

静岡県

委嘱日

令和2年9月30日

人数

1名



お気に入りの似顔絵

三浦 繁雄さん（委嘱時：63歳）

●次に続く人へ

1人1人の大切な人生ですので、ご自分の意思を持って暮らして行ってくださいませ。

●大使になったきっかけ

以前から県の認知症ピアパートナー（三浦さん発信で静岡県は認知症ピアサポーターから改称）として、活動に協力していたことがきっかけで任命されました。

日々の暮らし・活動



県内の事業所の活動へ参加



沖縄県の仲間と



愛知県の仲間と



朝寝、昼寝、夕寝、夜寝の日々で時々、活動しています。
満足です！

希望大使としても、活動しています



希望大使委嘱式 と 知事との懇談（2020年9月）



アルツハイマーデー街頭活動（2022年9月） * 啓発動画にも出演しました。

このほか
・市町主催の講演会
・フォーラム等での
講話
・広報誌等への掲載
等も行っています



令和4年度 愛知県認知症ピアサポート活動研修会（2023年1月。愛知県主催）
愛知県と、岐阜県・静岡県の希望大使と一緒に参画しました。

任命した静岡県担当者から

<任命してよかった点>

認知症の本人発信の取組が全国で展開されていることによって、行政としても進めている施策であることが住民等に伝わりやすい。

<課題、これから注力したいこと>

- ・委嘱人数の増加

愛知県認知症希望大使

愛知県

委嘱日

令和3年7月27日

人数

2名



近藤 葉子さん
(委嘱時：61歳)

●次に続く人へ

認知症になってもまだまだその人自身の残っているやれること、やりたいことなど能力を見つけて、楽しくその人らしく生きていけることを知ってほしい。

●大使になったきっかけ

認知症の病気のこと、当事者の気持ちの理解はまだまだ知られていなくて、認知症は怖い病気、世の中の被害だと信じている人たちの壁を取り崩していきたい。



内田 豊蔵さん
(委嘱時：78歳)

●次に続く人へ

希望大使の仕事はそんなに大変なことではありません。最初は構えてしまうかもしれませんが、気楽にやってみてください。

●大使になったきっかけ

信頼している人からの勧めもあり、ご本人さんを元気づけたい、自分にできることがあればという気持ちで受けました。

日々の暮らし・楽しみにしていること



週3回通うデイサービスにていつも活動をアシストしてくれる方と一緒に。



ひな祭りで作りました。愛犬といつもの散歩。



地元の小学校で、小学生と「ビオトープづくり」に参加。庭造りの経験があり、率先して泥をこねました。



趣味の押し花でキャラバン・メイト通知をデコ(なくさないように〜)キャラバン・メイトとして活躍しています。



ボランティア活動施設への慰問活動をしています。



北区で実施の「認知症フレンドリーフィールドワーク」に参加。仲間とお出かけ(小牧城)

こんな活動をしています



若年性認知症の本人・家族交流会で、家族とセッション。



活動パートナーとの対談はいつも出たとこ勝負！ありのままで話します。



「北区にも本人が集まる場を」と「本人のつどい」の立ち上げに尽力



各地の本人と対談しています。



地元、名古屋で開催されたフォーラム「本人座談会」に登壇。



活動パートナーと一緒に、県内の高校を訪問して高校生と交流。



愛知県の「認知症ピアサポート活動研修会」を3県合同で開催。大使2人が参加。

* 愛知県、岐阜県、静岡県の認知症希望大使や活動パートナーが参加しました。
(2023年1月)

任命した愛知県担当者から

<任命してよかった点>

認知症の方で本人が元気に活動されていることが広く県内に知られるようになった。

講演会の参加者からは、「認知症に対するイメージが変わった」などの反響がある。

大使の派遣により、市町村などの関係機関が、「ご本人に発信してもらおう場」を設ける機会が増えたと感じる。

<課題、これから注力したいこと>

- ・県内各市町村で、本人発信をしていただける認知症で本人が今後さらに増えると良いと感じるが、市町村からは、「活躍できるご本人が見つからない」などの声を多く聞く。
- ・大使や大使の活動パートナー、他県の行政担当者等のご意見を参考に、「認知症の方で本人による発信、社会参加のあり方」や、それを実現するためのサポート方法等についても検討し、県内で本人発信の場を増やしていきたいと思う。

京都府認知症応援大使

京都府

委嘱日 令和4年12月7日

人数 7名



安達 春雄さん
(委嘱時：60歳)

認知症になったから終わりではないこと、できることはいくらでもあることを知ってほしい。



井上 和亨さん
(委嘱時：59歳)

認知症であることを公表することで、認知症になった人に前向きなメッセージを伝えたい。



下坂 厚さん
(委嘱時：49歳)

認知症になった者から伝えないと、変わっていかない。認知症の方には偏見や誤った理解があり、一人の人間として、正しい理解を広めるよう導いていきたい。



鈴木 貴美江さん
(委嘱時：83歳)

認知症になっても一歩外に出ると、新たな出会いや良いことが沢山ありました。受け入れて今、出来ることを楽しむとまた勇気が出てきます。誰かのお役に立つ事が私の元気の源になっています。周りのみなさんに支えて頂き今とても幸せです、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。



氏名非公表
(委嘱時：59歳)

認知症になった方のために勇気をふりしぼった。認知症で困っている人と接点をもちたい。



幸 陶一さん
(委嘱時：78歳)

元設計士で、京都市内の大規模住宅地開発にも参画。現在は、地域包括支援センター主催の「男の居場所」に定期的に参加。また、地域包括支援センターで作成した認知症啓発DVDに出演し、自らの想いを発信している。ハーモニカが得意で、デイサービスなどで演奏している。

日々の暮らし・楽しみにしていること



地域包括が運営する認知症カフェでコーヒーを注いだり、カップを洗ったりなどの水回りを担当「声かけてもらって、うれしい」。

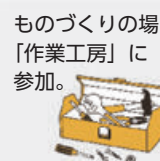
今の目標は自転車に乗ること！
と思ったら、練習初日に乗れてしまって、本人もびっくり（笑）



自宅ガレージを地域に開放し、シニア男性の会や、地域の子どものための自主的な学び・遊びを支援する団体と共に活動。



認知症になっても就労を続けたいと、新たな仕事にも挑戦。



ものづくりの場「作業工房」に参加。



趣味は、音楽・舞台鑑賞。



ハーモニカが得意で、デイサービスなどで演奏。

こんな活動をしています

若年性認知症本人交流会での活動

本人ミーティングで、いろんなテーマで話し合い…



「認知症になる前によく出かけていた神社めぐりを、また始めたい」
「諦めずに、出かけよう！」



「診断直後の当事者に仲間がいることを伝えるにはどうしたらいいかな」
「こちらから出会いに行ける場があればいいな」



「最近、おれんじサロンに来られてないな…」
「みんなで会いに行こう！」



講演会
・ 府や市町村が実施する講演会等への登壇
・ 全国各地での講演



ヒアリング
企業が実施する認知症にやさしいサービスやモノの開発に関するヒアリング



当事者作品展
(写真家としての活動など)

▶ 動画もご覧ください



任命した京都府担当者から

<任命してよかった点>

府内各地域の当事者と交流することで、それぞれの地域の当事者が集まって交流し、発信できる機会が増えることを期待している。

<課題、これから注力したいこと>

・ 任命後、大使に仕事集中してしまっており、負担にならないか懸念される。また、本人発信は大使以外にも活動をされている当事者もいるが、どうしても大使が注目されてしまう状況がある。

ひょうご認知症希望大使

兵庫県

委嘱日

令和3年9月21日

人数

1名



古屋 一之さん（委嘱時：63歳）

●認知症と診断された方に伝えたいこと

「絶対に負けないでほしい。強くなることが大切。自分はまだ強くない。強くなりたいと思っている」

●大使になりませんか？と声をかけられた時

「自分にできるかな……」と思った。

●大使活動を実際にしてみると

「思いのほか幸せな時間でした」

「人に話している時、自分の思いを伝えている時、生きてるな～生かされてるな～って思う」

●認知症と診断されて以降

「人が去っていくことが一番つらかったし、悔しかった」

「でも今はたくさんの方が支えてくれる。どれだけ助かったかわかりません。それが嬉しかった」

日々の暮らし・大切にしていること

餃子をつくる



中華料理店をやっていました。まわりからも、「餃子のタネをこねる姿は、さすがプロ。とてもカッコいい」と。

趣味の陶芸作品



陶芸は最近していないけれど、またしたいと思う。集めるのが好き。

ソフトボール大会で（富士宮市で開催）

ヒットを
打ちました！



そして、優勝！
富士山をバックに
優勝旗とともに♪

体育大学卒業、体育教師の経験を持ち、たくさんの競技会に参加してきました。
当日は選手宣誓も！（これは初めての経験^^）

こんな活動をしています

＜2018年から、いつもアシストしてくれる方と、ラジオ出演や講演などさまざまに活動＞



コミュニティFM局に出演（2018年12月）



三田市キャラバンメイトスキルアップ講座（2019年1月）



三田市福祉功労者表彰式（2020年1月）



播磨オレンジパートナーのオンライン講座に講師として参加（2020年10月）



ひょうご認知症希望大使委嘱式（2021年9月）



「認知症の人も安心して暮らせるまちへ」（当事者からのメッセージ動画に協力）
<https://hyogo-ch.jp/video/3149/>



【古屋さんにとって、暮らしの中で大事なこと】

- ①通う場（居場所）があること
- ②コミュニケーションをとること
- ③爪痕を残したい

（2022年10月「希望を叶える活動に向けたカンファレンス」にて*）

* 古屋さんと家族、日頃の仲間、介護関係者が知り合う場、話し合う場をもつために集いました。

▶ 動画もご覧ください



任命した兵庫県担当者から

＜任命してよかった点＞

「古屋さんがこれから、どんな生き方をしていきたいか」に焦点をあてたカンファレンスでは、古屋さんの日常生活を支える支援者と、その気持ちを共有する時間をもつことができました。

それは、認知症になって、たとえ暮らし方に変化が生じたとしても、「自分らしく生きることを諦めない」生き方を、ありのまま参加者に見せてくださり、私たちが、これから目指す共生社会のイメージをより具体的にして、考えを深める時間にもなりました。

県では、こうした古屋さんからのメッセージを施策に反映して、広く展開しようとしており、「本人の声」を大切に考える考え方が、県内の市町にも浸透してきていると実感しています。

また、「古屋さんに会いたい」と他の当事者にとっては、本人ミーティング等社会参加のきっかけにもなっています。

＜課題、これから注力したいこと＞

- ・ 県では、各市町で、ご当事者として発信される方の後押しを、大使や、他の地域ですでに活動されている方に担って頂いたり、現在は一人で活動している大使の応援団のような形で、一緒に県事業に参加して下さる仲間が増えるよう、調整していきたいと考えています。
- ・ 県内の当事者間のネットワークや、各市町で当事者の社会参加を促進する行政担当者や支援に関わって下さる方の地域を越えた繋がりや、支え合いが広がるよう取組をすすめたいと思っています。

かがわ認知症希望大使

香川県

委嘱日	令和2年12月17日	令和4年12月17日
人数	2名	1名



志度谷 利幸さん（委嘱時：71歳）

●大使になったきっかけ

63歳の時に妻の勧めで受診し、若年性アルツハイマー型認知症と診断される。その後、地域の交流の場である「育育広場」の仲間とともに保育所へ自作の木工製品を提供したり、全国・県内各地で自らの体験を伝える講演を行うなど、多方面にわたり活躍。地域包括支援センターより大使の推薦があった。

Webでもいろいろな人に会ったな～。
これからもいろいろな人に会いたい。
未来はあるんや。

地元の住民と交流して暮らす、普通の生活からうまれた本人のメッセージ

育育広場は自由でええ。
ゲームも楽しいし、おやつも
うれしい。皆がやさしんがええ。

体操・散歩・卓球、やっぱり卓球が
好きや、歩くんは、元気でいたいんで
歩くんや。

近くの人にはよお、私のことを知って
くれているみたいで、いろいろ
助けてもらってる。

「えがお[※]」の人の顔を見
るだけでも安心すんや。
いろいろ話しておもっ
しゅい。

※えがお
「綾川町国民健康保険総合保険
施設綾南」のこと



認知症は自分で自分を
いじめるんや。
それがわかって良かった
けど、今思ったことを
忘れる。人に何か聞かれ
て言おうとしても忘れ
てつらい。

妻が仕事の日にはデイサービスにいっきよる。
皆やさしい。
どこに来たかわからなくなることもあるが、
知っとる人をみると安心すんや。

日々の暮らし・大切にしていること



地域のなかまと共に活動しています



「お役にたてるのであれば、活動をつづけたい。」



町の初期集中支援事業のチラシにも登場しました



いくいくひろば
『育育広場』

住み慣れた地域で、楽しく生きがいを持ちながら、安心して暮らし続けるための場所づくりと世代交流の在り方を模索している場所。

動画もご覧ください



任命した香川県担当者から

<任命してよかった点>

認知症の本人から思いを聴く機会が未だ少なく、県内で認知症となった自分の思いを語れる、語ってくれる方も少ないため、大使の生活圏内では本人ミーティング等を随時行えている。認知症を身近なこと、自分事として考えてくれる機会も与えている。

<課題、これから注力したいこと>

- ・大使の病状の進行や加齢に伴い、普及啓発活動に調整が必要となる。
大使本人が希望している間は、活動していただく任期は妨げていないので、サポートの方法に工夫が必要である。

えひめ認知症希望大使

愛媛県

委嘱日

令和4年10月1日

人数

2名



高橋 弘子さん
(委嘱時：78歳)

●次に続く人へ

認知症のご本人に会って、よく話を聴くことが大切だと思います。

●大使になったきっかけ

地域包括支援センターからの推薦。包括主催の本人ミーティングに参加され、とても明るく、誰とでも話することができ、聞き上手。みんなに好かれる人柄。場の空気を楽しめる。認知症になっても前向きに役割を持って生活されている姿を発信してほしいと思った。(推薦者から)



宮脇 勝さん
(委嘱時：59歳)

●次に続く人へ

自分自身の気持ちや思いを周囲に伝えていこう！認知症になっても、自宅にこもらずに外にしよう！

●大使になったきっかけ

認知症になって、日々の暮らしに制限を受けたり我慢を強いられる状況があることを身をもって感じた。認知症になっても、辛いことばかりではなく、楽しいこともある！ということをも自分自身の実体験を通して同じ境遇下の方に伝えたいと思った。「みんな外に出て楽しもうよ！」と伝えたい。

日々の暮らし・大切にしていること



デイサービスを利用しています。利用者の方のお話を聞くのが私の役割！



夫婦で陶芸体験



平日は就労継続支援B型事業所とデイサービスへB型では畑仕事や海産物の下処理、清掃。自然を感じる畑作業は楽しい。手塩にかけた農作物が育っていくのが嬉しい。



2か月に1回、認知症カフェ「あまなつカフェ」で地域の方と交流陶芸体験や自宅でのジャム作りも。



週末は趣味のサイクリング最近は、道後温泉周辺の散策が楽しみの一つ。



こんな活動をしています



令和4年11月14日に開催した「認知症にやさしい地域づくり講演会」パートナーである夫とともにパネルディスカッションに参加。

地域の認知症カフェや包括支援センターからの依頼で日々の想いを語っています。



夫と地区の認知症サポーターと。

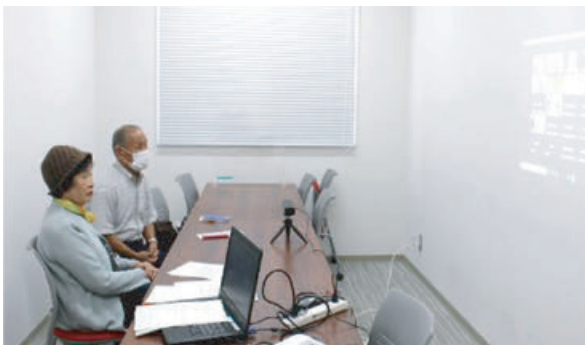


新聞記者と
名刺交換

愛媛新聞の取材「人・ひと・人」のコーナーで紹介されました。



若年性認知症支援コーディネーター主催の本人・家族交流会に毎回参加、本人同士の交流会の間ではムードメーカーとして活躍。



希望大使交流会（オンライン）に参加



愛媛県認知症普及啓発フォーラム（えひめ希望大使委嘱式）

任命した愛媛県担当者から

<任命してよかった点>

希望大使の委嘱式やシンポジウムを行ったことで、近年減少傾向であった認知症普及啓発フォーラムの参加者が増加し、認知症の普及啓発効果に寄与している。

<課題、これから注力したいこと>

- ・ 活動機会の拡大。

高知家希望大使

高知県



委嘱日

令和4年7月26日

人数

1名

山中 しのぶさん（委嘱時：45歳）



●次に続く人へ

私は認知症が怖かったです、今は恐れていません。正しい知識と理解があれば住みなれた地域で生活ができます。

私は、一人ではできないことや諦めないといけないこと確かに増えてきましたが、できないことは助けてもらっています。誰もが、助けてほしい。HELPをいえる社会になるよう活動していきたいと思っています。

●大使になったきっかけ

先輩（認知症をもつ方）に希望のタスキを受け取りました。次は、私が仲間として認知症をもつ方、その家族の支えになりたいと思い希望大使になりました。

今は、全国の仲間が応援してくれ支援してくれていることに感謝しています。

日々の暮らし・大切にしていること



認知症を持つ先輩から希望のタスキを受け取り次は私の番だと、どん底から這い上がりました。



でいさあびすぱっぴい（2022年10月開所）誰もがひとりと感じない居場所を、このはっぴいでつくりていきたい。



私が子供達の事、忘れたくないと思い、暗い表情になると、「何かんがえゆが？忘れてもかまんわえ！今が楽しければいいわえ」と言われ、笑顔が戻った写真です♡



2022年冬にはスノーボードに挑戦しました！！

こんな活動をしています



「高知県若年性認知症のひとと家族と支援者の会」の主催
小学校に認知症サポーター養成講座に行ってきました。
子供達に伝える大切さを教えてもらいました。（2022年6月）

令和4年度認知症講演会 安来市にて（2022年12月）

「私、得意なこと。スマホ教室ならまだできますよ（笑）
退職してからも何回か、スマホ教室やって、といわれ
て、やったことはあります。個人的にですけど。」

先輩たちがいるから発信しやすいし、当事者ですと
言ったら、助けてくださる方たちもいらっしゃる。
県の方も、市の方も。そういう環境を、先輩たちが
つくってくださったからこそ、できることなん
だなと思っていて、日ごろから。お会いしたときは
絶対お礼を言いたかった。まだちょっとボロボロな
ところを私も踏んで、歩きやすいように。

▶ 動画もご覧ください



任命した高知県担当者から

<任命してよかった点>

委嘱させていただき、認知症ご本人の方が発信する機会や県民が当
事者の声を聞く機会を得ることができた。

委嘱式を新聞やメディアで取り上げてもらうことにより、精力的に
活動している当事者のポジティブな姿を、広く県民に対して広報す
ることができた。

希望大使との情報共有により、当事者の活動内容を把握することが
できるようになり、当事者の活動に対するサポートのあり方や普及
啓発の参考にさせていただくことができた。

<課題、これから注力したいこと>

- ・希望大使が1名の状況なので、ご本人
に講演等で負担をかけており、2人
目、3人目の任命につなげていく必要
がある。

ながさきけん希望大使

長崎県

委嘱日	令和3年10月13日	令和4年9月10日
人数	3名	5名



福田 人志さん
(令和3年委嘱時：59歳)

●次に続く人へ

これまで培ってきた素晴らしい人生の主人公である、あなたが見てきたことを、そして今見えている世界とこれからの思いを、素敵な笑顔で伝えてください。

●大使になったきっかけ

私たち当事者の思いや生き方を理解して応援してサポートしてくださる人が増えていくことを、心より感謝したいと思います。皆さんとの繋がりを大切にしながら、暮らしやすい町になるように一緒に進めていきたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。



溝上 文徳さん
(令和3年委嘱時：57歳)

●次に続く人へ

本人も大事ですがそばに居る家族がストレスをためない生活を送ることも大切です。

●大使になったきっかけ

認知症のひとと家族の会からの勧めで。同じ病気の人や家族の方に伝えられる事があればと思います。友人や家族、長崎県の関係者の方、認知症の家族の会の方に支えられ元気に過ごせてます。



江濱 真司さん
(令和3年委嘱時：50代)

●次に続く人へ

大使の中には、認知症に詳しい大使の方もいらっしゃるの、そうした方から色々教えてもらうことができますので、安心です。

●大使になったきっかけ

会社から認知症大使になってみないかと言われて、認知症大使になりました。



金井田 正秋さん
(令和4年委嘱時：67歳)

●次に続く人へ

認知症も病気だから何も気落ちしないで堂々と私のように「私は認知症です」と言って一度切りの人生ですから、認知症其れがどうした、俺は俺だぞと堂々と行動して下さい。

●大使になったきっかけ

佐世保の認知症のひとと家族会の「講演をしてみませんか」の一言で私の人生が変わりました。会との交流で堂々と日常生活していたら希望大使の依頼が有り引き受けました。



田中 豊さん
(令和4年委嘱時：53歳)

●次に続く人へ

皆さんは認知症となると不安なイメージと思うでしょうが、私もそうでしたが、進行すると聞かされたが、周りの人のフォローと会社の人たちの理解で自分らしく進んでいいと言われてもらえて安心して暮らしています。

皆さんも希望を持って暮らしてください。

●大使になったきっかけ

東長崎地域包括支援センターの方々の推薦と私が地域で認知症の活動をしたいとの思いを組んでもらったのがきっかけです。

日々の暮らし・楽しみにしていること



勤務しているデイサービスで利用者さんのリハビリのお手伝い。



展示会に向けて、下絵を制作中。少しペースが遅れてる🐢 気持ちは画家かな？



馬車を楽しんで、お馬さんと記念撮影。

日々の暮らし・楽しみにしていること



診断されてから毎日60分5
キロ7千歩のウォーキング・
家事・農作業しています。

病気になった頃は塗り絵をしていました。今は字を書いたりしてます。一番できるのはカラオケ。

こんな活動をしています



私たち当事者同士が会える場所であり、誰でも参加で
きる「峠の茶屋」は8年目。これからも皆と繋がりたい。
参加者のことを思いながらワクワク準備中。

自分が体験したことをお話しています。



佐世保市での、本人ミーティング
案内用ポスターを貼らせていただ
きました。やったー！

任命した長崎県担当者から

<任命してよかった点>

認知症本人が活動している姿を発信することで、他の
認知症本人が大使への意欲を示すなど、認知症本人の
活動に良い影響を与えている。

<課題、これから注力したいこと>

- ・大使の活動が広がらないこと。大使の普及啓発や市
町、関係機関等での活用ができていないこと。

大分県希望大使

大分県

委嘱日	令和3年9月2日	令和4年10月27日
人数	2名	4名



戸上 守さん

(令和3年委嘱時：60歳)

●次に続く人へ

認知症になることは、こわいことではありません。たくさんある病気の中のひとつです。病気があっても、人生は楽しめるはずです！

●大使になったきっかけ

自分らしく暮らし続けるためには、認知症への理解を深めてもらうことが大切。認知症になっても同じ社会の一員として、地域をつくっていきたくて思っている。



寺野 清美さん

(令和3年委嘱時：67歳)

●次に続く人へ

認知症になったからと何か悪いことをしたわけじゃない。堂々と前を向いて生きていけばいい。助けてくれる人に「ありがとう」って感謝しながら生きていくのもいいと思う。

●大使になったきっかけ

市報の認知症啓発の記事に掲載され、県担当者からお話をいただいた。持ち前のチャレンジ精神で「私でできることならなんでもします！」とお受けしました。



下田 哲也さん

(令和4年委嘱時：57歳)

●次に続く人へ

外国で病気を発症し、家族もいなくなりましたが、故郷に帰って親兄弟、支援者さんらに見守られながら、今は楽しく元気に暮らしています。認知症の人と家族の会や支援員の方々など、県内には多くの仲間がいますから、ご安心ください。

●大使になったきっかけ

認知症地域支援推進員、オレンジカフェスタッフ、母親らから「やってみたら〜」とユルく勧められた。自分としては県内各地に行って多くの人に会い話ができると思うとやってみたくなり「はい、やりますよ」と引き受けた。



佐藤 彰さん

(令和4年委嘱時：72歳)

●次に続く人へ

認知症とわかって落ち込んだ事もあったけど、家族に迷惑をかけたくなかったんです。娘に連れられ「なでしこガーデンサービス」さんに行ってみたら、楽しかったです。皆さんにも外に出る「勇気」を持って欲しいです。そして当事者の側にいる人には、背中を押していただきたいです。

●大使になったきっかけ

数年前からもの忘れが多くなり、だんだん気持ちが落ち込み…。そんな私に、家族が背中を押してくれて、「なでしこガーデンサービス」へ。畑仕事をしたり、同じような友達ができて、元気をいっぱいもらいました！自分の経験を話して、他の人にも元気になっていただきたい。

日々の暮らし・大切にしていること



仕事もがんばってます！



6人家族の私の大事な役割
毎日たくさんの洗濯物を干しています。



趣味の山登りに友人が誘ってくれます。
ありがたいなあ。



オレンジカフェのコーヒー係！



久しぶりのソフトボール！
白熱した試合で、「まだやれるんだ」と自信に。



こんな活動をしています

<ピアサポーター活動>

認知症の方自らが、同じ思いや不安を抱える方の暮らしを支える担い手「ピアサポーター」となり、行政と連携し認知症になっても安心して暮らしていける環境・地域づくりを進めています。



家族の会の皆さんの前で、これまでの自分のことをお話しました。

各地に出向いて、お話をすることが増えています。



ご家族からの相談を受けてご自宅へ。お誘いしたら、次の週から一緒に活動してくれて、うれしかったです。

ピアサポート活動で、地域の公民館でお話することもあります。

大分県のピアサポーター研修で、本人ミーティングもしました。



OBS大分放送の取材

委嘱式で、大使集合！

希望大使通信（県が発行）

任命した大分県担当者から

<任命してよかった点>

「希望大使」と銘打つことによる発信のしやすさ。

本人発信の活動機会の増加

（「大使の話を聞きたい」といった活動の依頼や、地域の方からの個別依頼もあり、認知症を考えてもらうきっかけになっている）

大使本人の意欲向上、モチベーションとなっている。また、地域へ出掛けること、人前で話すことが本人の「生き生きと暮らすこと」に繋がっている。

<課題、これから注力したいこと>

- ・ 依頼に応じて活動しているため、コンスタントに発信する機会をより一層作っていきたい。

動画もご覧ください



「認知症とともに生きる希望宣言」

認知症施策推進大綱では、「認知症とともに生きる希望宣言」について、「『認知症本人大使（希望宣言大使）』を創設すること等により、本人等による普及活動を支援する。」と明記されています。

「認知症とともに生きる希望宣言」は、わたしたち認知症とともに暮らす本人一人ひとりが、体験と思いを言葉にし、それらを寄せ合い、重ね合わせる中で、生まれたものです。

（日本認知症本人ワーキンググループ（JDWG）が2018年11月に表明）

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ

認知症とともに生きる希望宣言

1

自分自身がとらわれている常識の殻を破り、
前を向いて生きていきます。

2

自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、
社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。

3

私たち本人同士が、出会い、つながり、
生きる力をわき立たせ、元気に暮らしていきます。

4

自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、
身近なまちで見つけ、一緒に歩んでいきます。

5

認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、
暮らしやすいわがまちを一緒につくっていきます。

1. 都道府県が地域版希望大使を設置する目的

「大使を任命する」ことや数を増やすことを焦らずに、「何のために大使を設置するのか」、大使を設置する目的を都道府県として十分に検討することが重要です。大使の設置目的を検討することが、任命のあり方や活動の具体的内容を明確にしていくことにもつながります。

1-(1) 大使を設置する目的は？

- ① 「認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる」ことの理解と普及啓発を図る
- ② 「共生社会の実現」を本人とともに進めていく姿勢やあり方を示していく

- ① 認知症の人が生き生きと活動している本人の姿や声を通じて、認知症に関する社会の見方を前向きに変えていきます。同時に、多くの認知症人がよりよく暮らしていく希望をもたらししていきます。
- ② 認知症施策が目指す「共生社会の実現」は、本人抜きに進みません。希望を持って前向きに暮らしている本人とともに「共生社会の実現」を進めていく姿勢やあり方を、都道府県が大使任命とその活躍の支援を通じて、住民や関係者に実際に示していきます。

<参考1> 都道府県が任命してよかった点

- 😊 大使のイベント出演がきっかけで交流が生まれ、地域の活動が活性化された
- 😊 本人から思いを聞くことで認知症に対する理解が深まり、偏見の払拭につながっている
- 😊 自治体の担当者、施策の関係者の理解を促進し、認知症施策全体を推進する牽引力となっている

<参考2> 地域版希望大使が設置された都道府県のうち、大使の参加・協働のある市町村の回答 N=88

「希望大使」の参加による参加者の変化	本人が希望を持てたきっかけ
① 認知症本人に対する見方が変わった…95.5% ② 認知症に対する関心が高まった…88.6% ③ 認知症に対する考え方が変わった…84.1%	● ずっと家に引きこもっていたが、大使の話を聞いて“認知症になってもできることがある”、自分も何かしたいと思った。 ● 認知症になったら終わりだと思っていたが、大使が活躍する姿を見て、自分も誰かを勇気づけられる存在になりたいと思った。

1-(2) 大使設置に関して都道府県として必要なことは？

- ① 市町村における本人発信の推進と都道府県の大使設置の関連を明確にする
- ② 管内全体に大使の設置目的の浸透を図る

- ① 「市町村ですでに本人発信が始まっているので地域版希望大使は必要ないのでは？」という意見もあります。もちろん、各市町村が地元での本人発信を支援する活動が最も基本であり重要です。一方、都道府県管内の市町村の温度差を解消し、どの市町村でも本人発信があたりまえになることを都道府県が推進していくために、地域版希望大使の設置が非常に重要です。
また、都道府県内の本人発信のあり方や内容を拡充していくためには、都道府県が大使を設置し、都道府県を超えて大使同士がつながり、ともに話し合う機会を作る必要性も高まっています。
- ② 大使設置の目的を管内市町村に浸透を図らないまま進めると、大使の存在意義が誤解されたり、矮小化された役割（単発的な講演の講師など）ばかりが求められてしまい、本来の目的が達成されず、大使が消耗してしまい、活動が長続きしません。設置目的を明確にし、管内市町村に広く浸透させることは、認知症施策の推進を形骸化させず、着実に推進していくために重要なことです。



2. 地域版希望大使の人物像と役割

「候補者がいない」「講演できる状態の人がいない」という声が少なくありませんが、大使は講演だけが役割ではありません。大使に最も期待されていることは“希望ある暮らしを続けている姿を発信する”ことで、“目の前の不安を持った人を一人でもいいから元気づけること”です。

大使の人物像 ～認知症の人に希望を与える人、みんなが希望を持てる人～

- ☺ 診断されて一年半泣き崩れた時期があった。その時に会ったのが、笑顔で元気で人に優しい人だった。自分の症状をきちんと受け入れている人、そういう人がなしてほしい。
- ☺ 落ち込んだときに「こうなりたい」と思った人は、自分の症状をきちんと受け入れて、前向きに笑顔で過ごしている人だった。希望大使はあきらめずに挑戦する人で、自分の趣味でも生活でもいいから、あきらめずにちゃんとやっている人。

2-(1) 大使はどんな人か？

◎ 認知症になってからも、地域の中で自分らしい暮らしを続けながら、前を向いて暮らしている人

●「特別な人」ではなく「ふつうの人」

「特別な人」ではなく、一人ひとり、自分なりに暮らしている「ふつうの人」。できなくなったことは自分なりのさまざまな工夫で補いながら、できることを活かして、今まで通り日々普通に暮らしている人。

愛犬といつもの散歩
(愛知県 内田豊蔵さん)



地域の仲間と活動
(香川県 志度谷利幸さん)



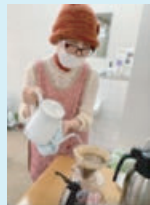
毎日、家族6人分の洗濯
(大分県 寺野清美さん)



●あきらめずに挑戦する人、他の人のために役立ちたいと願っている人

自分の生きがいになること（例：趣味等）や自分なりの生活を、あきらめずにやっている人。自分の功利ではなく、自分の姿を通じて他の人のために役立ちたいと願っている人。

誰かの役に立つことが元気の源
(京都府 鈴木貴美江さん)



出来ることは何でも挑戦したい
(千葉県 ただおさん)



楽しく生きていけることを知ってほしい
(愛知県 近藤葉子さん)



●年齢や状態像に限定されない

話せなくても、できなくなったことは自分なりのさまざまな工夫で補いながら、できることを活かして、今まで通り、日々普通に暮らしている人。そんな自分の姿を通じて役立ちたいと願っている人。

グループホームで生活しながら
月2回書道教室を開催
(東京都 岩田美枝さん)



得意なマンドリンを活かして
演奏ボランティア
(神奈川県 望月省吾さん)



デイサービスを利用しながら
利用者さんの話を聞くのが役割
(愛媛県 高橋弘子さん)



2-(2) 大使の役割は？

- ◎ 自分なりの言葉や姿を通じて、地域の中で自分らしく前向きに暮らしている実際や思いを伝えていく（発信の仕方は多様）。
- ◎ そのことを通じて、他の認知症の人や地域の人たちが、認知症について希望を見出し、不安を持った人がひとりでも前を向いてともに暮らしていける人を広げていく。

「発信できる人がいない」という意見は沢山あります。「発信」と聞くと、どうしても講演会のイメージになりやすく、役割もそこに偏りがちです。しかし、大使もいきなり話せたり、活躍できたわけではありません。様々な出会いや体験を通じて、“勇気を与えたい”とか“元気にしたい”など自分なりの役割を持てるようになったと言えます。自身の体験を語ることは、本人も成長していく機会につながっています。

まずは各市町村の中でふだんから本人が話せる環境をつくり、一緒に話し合ったり、考えたりする機会を増やしていくことで本人が発信力を高めていくことが重要です。都道府県担当者が市町村との情報共有を図り、都道府県の大使として活躍するに適した本人の存在を把握したり、発信力を高めていける環境を市町村とともに育てていくことが大切です。

発信のあり方は多様！

- 本人の思いや元気に暮らす姿を、日常の中で他の人に示すことも発信。
- 最初は話せなかった人も、話す機会が増えれば上手になる。ふだんの暮らしの中で、本人に聴く機会や話せる機会を増やすことが大事。
- どんな状態の人にも表情や振る舞いなど、言葉以外の発信がある。聞く側の「聴く力」「受けとめる力」も重要。

2-(3) 大使として活躍していくために必要なことは？

- ◎ 「やらされ感」ではなく、本人の意思で、本人が納得して決める

「変化していく本人の姿を人前にさらすことは可哀そうだ」という周囲の意見もあります。しかし、自分が懸命に生きている姿を伝えることに新たな役割を見出し、前向きになっていく人もいます。本人の望みに応じて、伝えることが難しくなってきた時にも発信をサポートする体制を考えていくことが必要です。大事なことは、決めるのは周囲ではなく「本人」だということです。本人とよく話し合いながら決めていくことが重要です。

任命・更新で気をつけたい点

- 周囲が熱心に勧めて、本人自身が大使の目的等がよくわからないまま任命されると、活動が受け身的で本来の大使の活動にならず、名前だけで活動がなされない場合もみられる。
- 周囲の人（家族や支援者等）が受任や更新に消極的な場合は、本人の意思が反映されるように協議や調整が必要。
- 本人は活動したい・続けたい意向があるが、周囲が本人の負担になると病気に悪い、認知症が進行している、活動の連絡調整やアテンドが大変などで、受任や更新に至らない場合もみられる。

- ◎ 大使の活動を続けていくための伴走者を見つける（チームを組んでいく）

本人は活動したいが、伴走してくれる人の都合がつかないために活動できなかった場合もあります。大使の活動を円滑に進める上で、活動を応援したり、アシストする伴走者が必要になります。伴走者は、本人がふだんからつきあい、大使として活動していことを応援・伴走していく人（たち）です。

伴走者： 本人が安心できる人で、専門性や資格の有無ではなく、「この人と一緒に活動したい」と思える人。
役割： 本人や関係者との連絡調整、活動内容についての本人との話し合いや事前準備、活動当日のアテンド、活動後のフォロー等、見えにくい役割・機能が多いので、一人ではなくチームを組めることが望まれる。

ふだんからつきあいのあるさまざまな立場の人が大使を応援しています。

長田さんの伴走チーム

地域包括支援センターのボランティアに応募し、毎月1回の本人ミーティングを包括職員と一緒にチームで応援している人たち。



介護を終えた主婦

（動画 No.1、No.2、No.3 東京都）

能任さんの伴走チーム

医療・介護相談の経験を役立てたいと暮らしの保健室を開設し、ママ友と週4日居場所を提供している人たち。



訪問看護ステーション管理者

志度谷さんの伴走チーム

志度谷さんをきっかけに地域住民と共に育ててきた居場所、長年志度谷さんと関係を築いてきた住民と専門職。



地域の人と地域包括支援センター職員

（動画 No.8 香川県）

3. 地域版希望大使の任命（委嘱）までのプロセス

大使の任命（委嘱）が目的ではありません。任命後の展開を見据えて取り組む必要があります。
地域版希望大使の任命（委嘱）までのプロセスは、概ね①設置目的・要件の確認と共有、②候補者の選定、③本人・家族等の意向確認、④任命・委嘱の4段階で進められています。

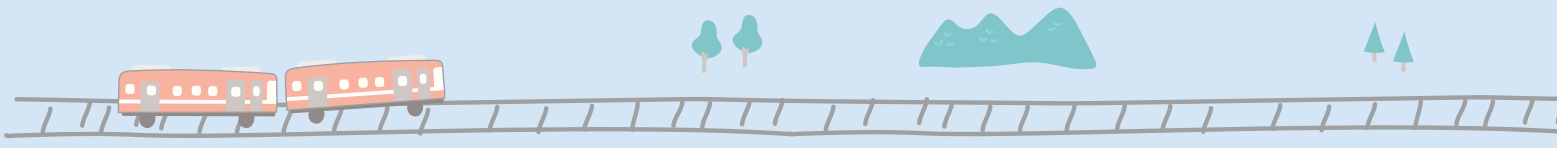
【任命までのプロセス】

プロセス	内 容	ポイント
①設置目的・要件の確認と共有	●大使の在り方検討（当事者及び関係機関等へのヒアリング） ●部内調整 ●大使を設置することを表明 ●候補者の把握（関係者等からの情報収集） ●関係団体（認知症の人と家族の会等）や市町村に照会	➢ 都道府県にとっての大使についての議論が都道府県としての認知症施策の骨格につながる。 ➢ 内部で本人発信への理解の説明に困ったら、動画や事例集なども活用。 ➢ 候補者の情報収集では、大使の委嘱ありきではなく、本人同士のつながりを重視することを第一の方針とし、市町村、認知症疾患医療センター、若年性認知症支援センター等で把握されている当事者、または当事者を把握しているカフェの主催者等に照会。
②候補者の選定	●公募準備（申込様式作成、起案） ●HP作成及び掲載 ●管内市町村等関係機関への周知 ●大使募集開始 ●関係機関等へ推薦依頼 ●候補者の部課内書類審査	➢ 大使任命を目的化しない。 ➢ 市町村及び関係機関等に推薦依頼をする際は、必要に応じて直接説明に行き、設置目的を共有する。 ➢ 「本人ミーティング」「チームオレンジ」などの活動を市町村に根づかせ、本人の社会参加の文化醸成と一緒に実感できるようにしていくことが大切。 ➢ 市町村内に根ざした発信（地域の中で本人が語る、活動する）や活動が基盤になり、その先に「大使」へつながる。
③本人・家族等の意向確認	●候補者及び家族等との面談 ●事業・活動内容等説明 ●本人の意思確認 ●本人の活動への家族等の理解 ●承諾書の受領 ●内部調整 ●委嘱準備（委嘱式の日程調整、委嘱状手配、進行要領等の作成） ●プレスリリース準備 ●委嘱式案内通知	➢ 趣旨説明と信頼関係構築を丁寧に行う。（本人家族等との信頼関係形成を丁寧に行う、趣旨説明を丁寧に行う） ➢ 任期のタイミングで再度意向を確認するが、途中の再任も退任も妨げないことを要綱で明記。 ➢ 若年性認知症支援センターや県職員による家庭訪問等、身近な支援者にも同席など協力いただく。
④任命・委嘱	●協力・支援者との連携 ●任命式開催及び委嘱状交付 ●ホームページ掲載	

①設置目的・要件の確認と共有

認知症が進行性の病気であることから、「活動への不安」が課題として挙げられています。

大使の病状等の変化に伴い、制限がかかったり生活状況が変化して依頼できなくなった、という事例もありますが、一方で、認知症の症状が進行しても「人とつながりたい」「出かける場所がほしい」と願う人もいます。言葉での発信が難しくなったとしても、本人のやりたいという意思があるのなら続けていただき、辞めたい時には任期中で辞めて頂いてもよいことを要綱に示している自治体もあります。状態が変わった場合も「決めるのは本人」という流れを一貫していくことと、長く続けられるサポート体制を考えていきましょう。



任命要件（令和5年2月現在）

都府県	任命要件	都府県	任命要件
埼玉県	・認知症の普及啓発活動に意欲のある人 ・認知症になっても地域で自分らしく暮らしている人	兵庫県	・県内在住であること ・認知症の診断を受けていること ・認知症の普及啓発活動に意欲があり、県と協力・連携ができること ・氏名・年代・所在市町村名・略歴・顔写真を原則、公表できること （公表できない理由がある場合はその限りではない）
千葉県	・在住者であること ・認知症の診断を受けていること ・認知症の普及啓発活動に意欲があり、県と協力・連携ができること ・氏名・年代・所在市町村名・疾患名・経過・略歴・顔写真を原則公表できること	香川県	・要綱に具体的には記載なし。
東京都	・在住の認知症の本人	高知県	・高知県内在住者 ・認知症の診断を受けていること ・県等が行う認知症の普及啓発活動への参加・協力ができること ・本人の同意を得ていること
神奈川県	・在住者であること ・認知症の診断を受けていること ・認知症の普及啓発活動に意欲があり、県と協力・連携ができること ・氏名・年代・所在市町村名・病名・経過・略歴・顔写真を原則、公表できること （公表できない理由がある場合はその限りではない）	愛媛県	・愛媛県内在住者 ・認知症の診断を受けていること ・認知症の普及啓発活動に意欲があり、県と協力・連携ができること ・本人の同意を得ていること
岐阜県	・希望大使として人格、意欲等から適任と認められ、本人家族ともに認知症希望大使の任命を承諾している県内在住の認知症の人	長崎県	・県内在住であること ・認知症の診断を受けていること ・認知症の普及啓発活動に意欲があり、県と協力・連携ができること ・氏名・年代・所在市町村名・略歴・顔写真を原則、公表できること （公表できない理由がある場合はその限りではない）
静岡県	・希望大使として人格、意欲等から適任と認める者	大分県	・県内在住であること ・認知症のご本人として、氏名・年代・所在地・略歴・顔写真等の公表が可能であること ・希望大使への活動意欲があり、県と協力・連携ができること
愛知県	・人格、意欲等から適任と認める者		
京都府	・府内在住であること ・認知症の診断を受けていること ・認知症の普及啓発活動に府と協力・連携できること ・氏名・年齢・所在市町村名・病名・経過・略歴・顔写真を原則、公表できること （公表できない理由がある場合はその限りではない）		

②候補者の選定

②-(1) 大使の候補者が見つからない

- ◎ 大使を「探す」という視点ではなく、管内市町村において普段から本人が話せる環境をつくることを促進していく。
- ◎ 管内市町村と連携しながら、さまざまな本人の活動情報の収集や再配信を通して環境づくりの促進をサポートしていく（発信する本人が増えていく中で、希望大使の任命につながる）。

「候補者が見つからない」という意見は沢山あります。2-(2)にあるように発信のあり方は多様なので、大使を探すことに注力しすぎると、本来の大使の役割を損なう危険があります。未設置の自治体では管内市町村への本人発信支援は約7割が未実施で、管内市町村の本人発信活動の把握も36.4%にとどまっています。市町村で本人が話せる環境が整っていくことで発信が増えていくことを促進していきましょう。

また、自治体関係者が本人としっかりと話し合う機会を作り、本人がやりたいことや方向性、方針を話し合うことで、認知症に関わる多くの事業のコアを見つけることができます。既に地域で活動している方に、「一緒に普及啓発を進めていきませんか」と声をかけていくことが大使任命につながる場合もあります。

ふだんからの信頼関係があるからこそ受任につながる！

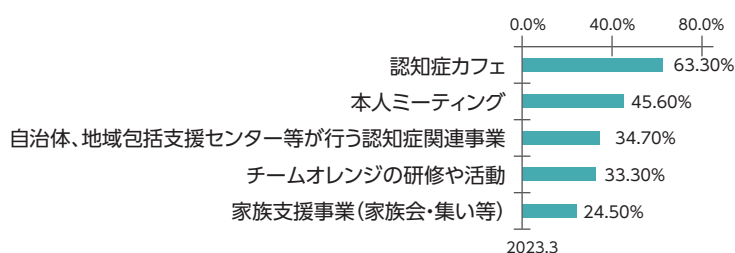
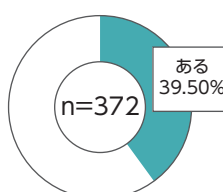
- ▶ 「この人がすすめることだからやってみようと思った」と、本人も安心感があることを強調される。
- ▶ 最初は「やらない」と言われたが、周りのサポートがあることや、普通の姿を見せればいいという事を説明して、「やってみよう」という気持ちになってくれた。

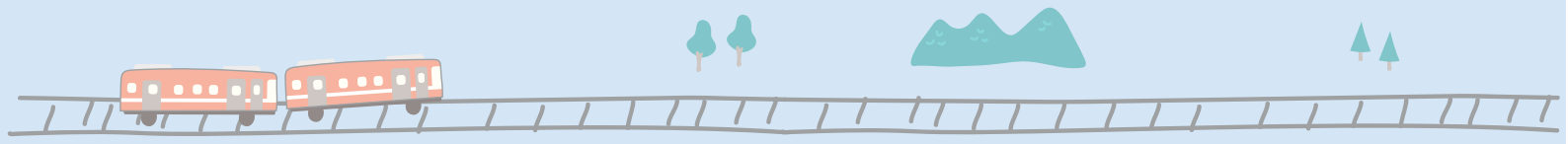
信頼関係に大事なことは？

- ▶ 所属や職種、資格ではなく、〇〇さんとしてふつうにつき合っている。「支援者」ではなく対等な関係。

大使を設置している管内の市町村のうち、自地域の本人とともに取り組んでいる事業は4割程度あり、認知症カフェ、本人ミーティングの割合が高くなっています。地元で本人と出会う中で活動が広がり、自治体はこれらの活動を把握し、関わりをもつことで更に活動が広がり、本人との接点が増えていきます。

希望大使設置都県管内市町村が、自地域内の本人とともに取り組んでいる事業





②-(2) 大使の選定方法

選任方法は、多くの自治体で「公募（自薦、他薦を問わない）により書類審査のうえ決定」としてはいますが、特に規定を設けていない自治体もあります。

【選任方法の例】

- 公募（自薦、他薦を問わない）により書類審査のうえ決定
- 市町村や医療機関、家族の会等の関連機関からの情報提供により、課内で適任かを検討
- 関係機関から推薦された候補者から書類審査等により選定
- 関係団体からの推薦
- 応募要件に該当する方全員を対象に選考委員会を開催し、面接のうえ決定
- 知事が適任と認められる者から若干名
- 課内で書類審査 等

候補者の推薦にあたっては、市町村やさまざまな機関に協力を求めています。都道府県も市町村も職員の異動が頻繁にあるため、関係性が途切れてしまうという課題があります。また、市町村からも「人事異動で担当者が変わるので定期的に情報を周知してほしい」という意見もあります。大使に限らず認知症施策を推進していく上では、日頃から市町村と連携し情報収集・共有を図ることが求められます。

【候補者推薦の協力者】

- 地域の関係者：市町村担当者、地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、介護サービス事業者、若年性認知症支援コーディネーター、オレンジチューター等
- 公益社団法人認知症の人と家族の会など支援団体等
- 認知症施策推進会議委員
- 医療機関（認知症疾患医療センター、県若年性認知症支援センター、認知症サポート医）等
- 本人交流会を実施している機関等

③ 本人・家族等の意向確認

③-(1) 意向確認

- ◎ 本人、家族、推薦者、支援者等と都道府県担当者が直接会い、主旨や活動についてわかりやすく説明し、本人自身の意向を確認する。
- ◎ 本人から現在の暮らしや今後についての希望等をうかがい、大使としての活動の可能性やその人に応じた活動のあり方などを検討していく基礎にする。

「本人・家族等の理解を得ることが困難」という意見があります。しかし、本人はいきなり大使になるわけではなく、もともと地元での活動が基盤にある方なので、ふだんの活動を応援してくれている本人や家族等と信頼関係がある人も多くいます。面談は都道府県の担当者だけではなく、本人が安心できる人と一緒に話せるように調整することも大切です。

また、都道府県の姿勢として大使の席を埋めるのではなく、本人の伝えたいメッセージを伺うとともに、都道府県が伝えたいことや方向性などをわかりやすく伝えるなど、この時点で承諾を得ることを急がず、よく話し合うことが重要です。

③-(2) 大使の適正で注意したいこと

本人たちが考える「大使に適した人」は、負の体験をしつつもそれを乗り越えてきた人、暮らしやすい地域をつくるために前向な発信をしていこうとしている人です。

実際に取り組みながら、大使としての意識や活動の可能性が高まっていく場合が多いので、任命や活動前に適正を判断することは慎重に行う必要がありますが、以下のような場合は十分な検討や対応が必要です。

適正で注意したいこと

- ◇ 本人の中には負の発信をする方もいます。負の発信に他の本人も引っ張られ、自分のことを否定しはじめたり、先のことが不安になったりする場合もみられます。負の発信のみだと、地域社会の人々の前向きな理解にはつながりません（負の発信をされる本人は、大使の活動の前段階として仲間との出会いや前向きになれるような地域での何らかの活動が必要）。
- ◇ 病気を受け入れられない方は希望につながりにくい。
- ◇ 個人的な関心や特定のサービスやモノをPRする発言が多い場合は、大使の立場としては、偏った発信や誤解を広げてしまう恐れがあります。

④ 任命・委嘱

委嘱식을新聞やメディアで取り上げてもらうことにより、精力的に活動しているポジティブな認知症当事者の姿を、広く自治体の住民に対して広報することができ、自治体の担当者等、施策を推進する関係者の理解を促進し、認知症施策全体を推進する牽引力にもつながっています。



埼玉県オレンジ大使



ひょうご認知症希望大使



高知家希望大使



大分県希望大使



京都府認知症応援大使 委嘱式（動画 No.6京都府）



4. 地域版希望大使の具体的な役割・活動の設定

4-(1) 役割はどうやって決める？

- ◎「希望ある暮らしを続けている姿を発信する」ことで、その発信方法は行政と本人とが一緒に考えていく
- ◎都道府県が画一的に決めて、それにあわせて「大使を利用する」のではなく、本人それぞれの状況や意向に応じて、話しあいながらその人にあった具体的役割と一緒に検討していく

都道府県の姿勢として「これをやって」というのではなく、本人がやってみたいことは何かを話し合い、それをやるためにはどうしたらよいかを一緒に考えながら作り上げていくことが大切です。大使としてさまざまな活動をする中で、いろいろな人に会い、目の前の一人でも元気づける体験が次の活動につながっていきます。

また、認知症対策部会の構成員として施策等の方向性について考え、取り組みを展開していく上でのパートナー的存在となっているところもあります。福祉の立場からは見えない方向から本人の視点で見えているものがあり、ケアパスづくりやさまざまな冊子づくりについても、出来上がったものを見てもらうのではなく、作成段階から一緒につくりあげていくことも望まれます。

主な活動事例

都道府県が実施する認知症の普及啓発活動への参加・協力		キャラバン・メイト活動・または応援	
認知症普及啓発フォーラム/愛媛県	認知症オレンジ大使インタビュー/千葉県	小学生向けサポーター養成講座/高知県	キャラバン・メイトスキルアップ講座/兵庫県
			
認知症ピアサポート活動			
ピアサポート活動研修会	地域の公民館で講演	ピアサポーター養成研修	
			
3県愛知県、岐阜県、静岡県で合同開催	大分県	大分県	

4-(2) 市町村等からの依頼についての対応

窓口は、多くの都府県で担当課が担っています。依頼者は活動依頼書等を提出し、依頼を受け付けた後は、大使の意向確認を行った上で具体的な調整に入っています。中には、手続きを関係団体に委託している自治体もあります。

また、活動依頼は必ずしも県を通さず、直接大使に依頼することを認めているところもあります。大使としての活動を県として判断する一方で、「大使の意向確認」が重視されています。

【依頼への対応例】

- 自治体担当課へ活動依頼書等を提出
- 管内市町村から事前相談票を提出→大使の内諾を得てから調整
- 大使のパートナーを通じて直接依頼
- 認知症の人と家族の会に委託（受付、日程調整、同行）

4-(3) 活動のフォローと調整

大使の活動に関する任命者（都県）のサポートは、次のようなサポートが行われています。

都府県のサポート	➢ 自治体担当者が同行等のサポートを実施 ➢ 活動依頼者や大使、支援者等との連絡調整 ➢ 打合せや活動の場への同席 ➢ 派遣調整、旅程等の作成 ➢ 大使の活動ニーズの聞き取りや活動支援（大使や関係機関等との企画調整、日程管理・大使の同行支援等） ➢ 体調を考慮し、活動頻度を月1回程度まで制限 ➢ 活動中の身体的・精神的なサポートが行える専門職団体に自治体から委託 ➢ 他自治体の大使、各地域の当事者の方との交流の機会を企画 ➢ 公用車による移動支援 ➢ ケアマネジャーや市町担当者への情報共有 ➢ ピアサポート活動等への経費負担（予定） ➢ 推薦団体にサポートを依頼	
大使の報酬	報酬・交通費有	➢ 活動を依頼した市町及び団体等 ➢ 自治体等の主催は規定に基づいた報償費（予算が確保されていない自治体もある）
協力者・支援者	報酬・交通費	➢ 大使と同等、無としている自治体もあり ➢ 地域により対応が異なり、善意に頼っている側面も否めない
	役割の例	➢ 打合せや活動の場への同席 ➢ 活動や打ち合わせの日程調整 ➢ 大使との連絡窓口 ➢ 講演会時の資料作成等準備 ➢ イベント時の付添い等 ➢ 活動時の移動支援 ➢ 講演会や研修会時の登壇によるサポート ➢ 質疑のサポート ➢ 大使の発言を引き出す役 等 ➢ 講話時のインタビュアー役 ➢ 精神面・身体面のサポート ➢ オンライン環境の整備

4-(4) 活動の記録と発信・共有

「市町村や関係機関への周知が足りず大使への依頼が少ない」という意見もあり、本人発信の機会を拡大し、市町村でも事業を広げていく上で、活動を記録し発信・共有していく必要があります。一方で「メディア露出により本人に負担をかけている」「大使活動へ過剰な期待がある」との指摘もあります。都道府県として、期待されている」「担当者は地域の」大使の活動を記録し、管内市町村に発信し、共有していくことが大切です。

ホームページでの発信例

兵庫県 ひょうご認知症希望大使の活動（当事者メッセージの発信等） 「認知症の人でも安心して暮らせるまち」をめざし、希望大使のメッセージを発信 https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf29/honninhashshin.html	いろいろな人に会ううちにもっと素晴らしいことがわかってきますよ！ ハイライト版(50秒) 	いろいろな人に会ううちにもっと素晴らしいことがわかってきますよ！ ダイジェスト版(7分20秒) 	「この病気も捨てたものじゃない」 本編(15分8秒) 
大分県 大使通信『大分県希望大使っち知っちゃん??』 大使4名の日々の活動の様子や関心事、皆さんへのメッセージを発信 https://orange-oita.jp/special/oitakennkiboutaishi.html			
大分県 認知症ピアサポーターの活動紹介と利用促進 https://orange-oita.jp/consultations/detail/2188aca9-3b4a-4214-8bdb-8d9100bbc255	活動の内容を紹介 活動の実際を紹介 派遣申込書 結果も把握 		



5. よりよい活動に向けて

5-(1) 実例の積上げと検証を進めよう！

本人が「名前を出しても構わない」と言われていても、いざとなるとご家族や親戚の方から「やっぱり不特定多数の人に知られたら困る」とブレーキがかかり、本人ががっかりした事例は少なくありません。家族や周りの意識が前向きに変化したというような成功体験の実例を積み重ねていく必要があります。

家族が不安に思っていることを具体的に出して、たとえ実名を公表しても、そうした心配ごとは起きていないことを示すなど、家族の不安をクリアするような提案も必要です。また、大使に限らず、本人発信の壁になっている事について、「実はそうではない」という証明をしていくことも、本人が活動しやすい環境を整えていくために重要になります。

大使を引き受けるにあたり悩んだ方も多いと思いますが、“取り越し苦労で心配していたようなことにはならなかった”など、本人が活動することによって周りの人たちがどう変わってきたのか、についても実例を積み上げていきましょう。

次に続く人へ



先輩方の活躍を見て、前向きになりました。
希望を持っていきましょう！
(埼玉県 渡邊さん)



大使になって色んな活動通じて、
沢山のひとと出会えた！
(千葉県 のりこさん)



私の姿が少しでも人の役に立つなら
認知症の方やご家族に力になりたい！
(東京都 岩田さん)



前向きに楽しく活動できるように努力して、
皆さんに喜んで頂けたら、
こんなに幸せなことはないですね。
(神奈川県 望月さん)



大使の仕事は、最初は構えてしまうかも知
れませんが、気楽にやってみてください。
(愛知県 内田さん)



認知症になったから終わりではないこと、
できることはいくらでもあることを知ってほしい！
(京都府 安達さん)



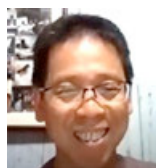
認知症のご本人に会って、
よく話を聴くことが大切だと思います。
(愛媛県 高橋さん)



自分自身の気持ちや思いを周囲に伝えていこう！
自宅にこもらずに外にでよう！
(愛媛県 宮脇さん)



誰もが助けてほしい、HELPを言える社会に
なるよう活動していきたい！
(高知県 山中さん)



これまで培ってきた素晴らしい人生の
主人公である、あなたが見てきたこと、
これからの思いを素敵な笑顔で伝えてください。
(長崎県 福田さん)



堂々と前を向いて生きていけばいい。
助けてくれる人に「ありがとう」って
感謝しながら生きていくのもいいと思う。
(大分県 寺野さん)

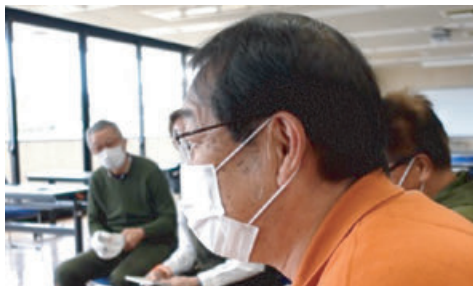


外に出る「勇気」を持ってほしい、
当事者の側にいる人には背中を押してほしい！
(大分県 佐藤さん)

5-(2) 本人大使同士の交流をすすめよう！

これから任命される人と、すでに任命され一歩先を行く人とが、希望大使の交流会などを通じてつながることで、「体験を話すってこういう活動なのか」と気づいたり、「これから認知症になる人のために、ぜひ話がしたい」と大きく変わったりする方がいます。本人同士の交流は、大使としての役割を見出したり、自分自身が希望をもって暮らしていく上での大きな力となったりするため、更なる交流の場づくりが期待されます。

本人ミーティング（大分県ピアサポーター養成研修）



全国の希望大使交流会



認知症本人大使「希望大使」5人からのエール



▶ 動画もご覧ください



5-(3) 自治体職員同士のさらなる交流を

自治体職員は、希望大使やその関係者と関係性を築いても異動があり、情報を含めて継続性に課題があります。そのため担当部署内だけではなく、管内市区町村や他都道府県との連携により、成果や課題の共有が推進していく上で役立ちます。



▶ 動画もご覧ください



交流については、既に自治体内または近隣自治体間での自主的な交流がうまれており、こうしたボトムアップ型とともに、全国エリア、地方厚生局エリアなど、さまざまなレベルでの交流の促進が期待されます。

「認知症本人大使『地域版希望大使』の設置について」
(令和 2 年 3 月 24 日老発 0324 第 2 号厚生労働省老健局長通知) (抄)

地域版希望大使の設置に関する基本的な考え方

1. 大使の名称

地域版希望大使の名称は、希望大使の前に都道府県名を付すものとする（例：北海道希望大使）。ただし、認知症の人やその家族、認知症の当事者団体等の意見も踏まえ、地域の実情に応じて、当該地域の高齢者や関係者が理解しやすい名称など独自の名称を定めることは差し支えない。

2. 大使の人選等

各都道府県知事は、公募や認知症の人本人や家族等の当事者団体、管内市町村からの推薦等の方法により地域版希望大使の候補者を募り、適任と認められた認知症の人を地域版希望大使として任命又は委嘱するものとする。地域版希望大使の人数、任期その他の地域版希望大使に関して必要な事項は各都道府県知事が定めるものとする。

3. 大使の用務内容

(1) 都道府県が行う認知症の普及啓発活動への参加・協力

都道府県が開催するイベント等での講演のほか、都道府県が発行する広報誌等への寄稿、2018 年 11 月に一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループが表明した「認知症とともに生きる希望宣言」等の紹介その他の認知症に関する普及啓発活動を行っていただく。

(2) 認知症サポーター養成講座の講師であるキャラバン・メイトへの協力

地方自治体又は全国組織を持つ職域団体及び企業が実施する認知症サポーター養成講座の受講者の理解を深めることを目的に、キャラバン・メイトが講師を務める当該講座において、自らの体験や希望、必要としていること等を自らの言葉で語っていただく。

(3) その他都道府県が必要と認めた用務

(1) 及び (2) に加えて、認知症に関する普及啓発のために都道府県知事が必要と認めた用務を行うものとする。

以上

認知症施策推進大綱（以下、抜粋）

1. 普及啓発・本人発信支援

【基本的考え方】

認知症は誰もがなりうることから、認知症の人やその家族が地域のよい環境で自分らしく暮らし続けるためには、認知症への社会の理解を深め、地域共生社会を目指す中で、認知症があってもなくても、同じ社会の一員として地域をともに創っていくことが必要である。

そのため、認知症に関する正しい知識と理解を持って、地域や職域で認知症の人や家族を手助けする認知症サポーター^{*1}の養成を進めるとともに、生活環境の中で認知症の人と関わる機会が多いことが想定される小売業・金融機関・公共交通機関等の従業員等向けの養成講座の開催の機会の拡大や、学校教育等における認知症の人などを含む高齢者への理解の推進、地域の高齢者等の保健医療・介護等に関する総合相談窓口である地域包括支援センター及び認知症疾患医療センター^{*2}の周知の強化に取り組む。

認知症の人が生き生きと活動している姿は、認知症に関する社会の見方を変えるきっかけともなり、また、多くの認知症の人に希望を与えるものでもあると考えられる。認知症の人が、できないことを様々な工夫で補いつつ、できることを活かして希望や生きがいを持って暮らしている姿は、認知症の診断を受けた後の生活への安心感を与え、早期に診断を受けることを促す効果もあると考えられる。認知症に対する画一的で否定的なイメージを払拭する観点からも、地域で暮らす認知症の人本人とともに普及啓発を進め、認知症の人本人が自らの言葉で語り、認知症になっても希望を持って前を向いて暮らすことができている姿等を積極的に発信していく。

（1）認知症に関する理解促進 略

（2）相談先の周知 略

（3）認知症の人本人からの発信支援

- 認知症の人本人からの発信の機会が増えるよう、地域で暮らす本人とともに普及啓発に取り組む。具体的には、「認知症とともに生きる希望宣言」^{*5}について、「認知症本人大使（希望宣言大使（仮称））」を創設すること等により、本人等による普及活動を支援する。また、認知症サポーター講座の講師であるキャラバン・メイトの応援者を認知症の人が務める「キャラバン・メイト大使（仮称）」を創設し、全都道府県へ設置することを検討する。

世界アルツハイマーデーや月間のイベント等においても、本人からの発信の機会を拡大する。

- 診断直後等は認知症の受容ができず今後の見通しにも不安が大きい。先に診断を受けその不安を乗り越え前向きに明るく生きてきて思いを共有できるピアサポーターによる心理面、生活面に関する早期からの支援など、認知症の人本人による相談活動を支援する。また、診断直後の支えとなるよう、認知症の人の暮らし方やアドバイスなどをまとめた「本人にとってのよりよい暮らしガイド（本人ガイド）」、本人が今伝えたいことや自身の体験を話し合った「本人座談会（DVD）」を普及する。
- 認知症の人本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う「本人ミーティング」の取組を一層普及する。市町村はこうした場等を通じて本人の意見を把握し、認知症の人本人の視点を認知症施策の企画・立案や評価に反映するよう努める。

地域版希望大使の任命と活躍の手引き（地域での活動事例集）

令和4年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）

地域版認知症希望大使の普及促進と活動支援に関する調査研究事業

発行：一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ

発行日：令和5（2023）年3月

